中国科学院研究生院講義報告

青木陽介

7月4、5日と中国科学院研究生院にて3時間ずつの講義を   
行った。当初の予定では、7月6日に学生とのディス   
カッションを行う予定であったが、7月6、7日に当地にて   
International Workshop on Modern Computational Geoscience    
Frontiersが開催されていたので、授業を4、5日の2日で   
切り上げた。  
  
講義は地球の変形の理論とその観測について行った。具体的には、   
プレートテクトニクスが生まれた背景と、その発展の歴史を解説   
し、プレートテクトニクス理論により、世界、とりわけ東アジア地   
域のテクトニクスおよび地震活動がどのように理解できるかについ   
て解説した。また、近年アジアで発生した大地震である2008   
年四川地震および2011年東北太平洋沖地震のテクトニックな   
背景および、観測データから何が分かるかについても解説した。  
  
7月6、7日は、急遽International Workshop on Modern    
Computational Geoscience Frontiersに参加し、東北太平洋沖地震   
にともない観測された地殻変動についての講演を行った。その後中   
国地震局に移動し7月8日に講演を行った。この日の   
講演は主に、火山における地震・地殻変動観測から得られる知見につい   
てであった。  
  
中国科学院での講義は、英語の苦手な学生が多いようで、講義中は   
反応があまり良くない感じがしたが、講義後に課したレポートは良   
いものが見受けられた。また、講義の合間に個人的に質問してくる   
学生が多く、熱意が感じられた。  
  
//